

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2014年5月22日

[テーマ] 恵まれた県内の産業地盤—輝き続けるための努力を—

5月半ば、上越線の土合駅を訪ねた。ループで名高い清水トンネルを通るためだ。これで上毛かるたゆかりの地をすべて訪問した。

前橋赴任後、最初に「日本で最初の富岡製糸」を訪れてから2年かけて達成した。会えない歴史上の偉人は、新田義貞挙兵の生品神社や船津伝次平の墓地などの訪問に代えた。



「県内の産業構造は、製造業の割合が高いとはいえ、農業やサービス・観光なども盛んでバラエティーに富む」との赴任当初の印象は、今も変わらない。

様々な産業が発達してきた背景には、少ない災害など恵まれた自然環境、巨大消費地の東京に近い地理的な優位性、さらには上州人の進取の気質が根付いているからだと思う。絹産業を起点に、他の様々な業種へ転じて発展した企業は少なくない。県外からの進出企業にも「来る者拒まず」の精神で温かく迎え入れる土地柄だ。だからこそ、県内の工場立地は全国上位が続いているのだろう。

■ 群馬県の強み、弱み

	全国上位	全国下位
立地	工場立地件数 (2013年、2位)	県庁都市の最高路線価 (2013年、46位)
ブランド力	ぐんまちゃん (2013年ゆるキャラグランプリ、 3位)	魅力度ランキング (2013年地域ブランド調査、44位)
交通網	高速道路網 (一)	人口10万人当たり交通事故負傷者数 (2013年、ワースト4位)
自然災害	県庁都市の大地震発生確率 (2012年、低い方から7番目)	雪害対策 (一)

カッコ内は全国順位

群馬県、国税庁、ブランド総合研究所、総務省、地震調査研究推進本部地震調査委員会の調査などから

ただ、地盤に恵まれても、県外や海外に向けてPRや情報公開を積極的に進めないと、ビジネスチャンス逃がしかねない。群馬県に対する世間の認知度が低いことを「良さがわかってない」と嘆く声をよく聞くが、わかってもらうための努力を続けなければ前に進まない。

恵まれた地盤と安心して備えを怠ると、思わぬところで失点する。県内では今冬、観測史上最大の大雪を経験したが、交通まひの長期化など雪国では起こらないもろさを露呈した。高速道路網の整備が進み、物流面の利点が増える一方で、車社会の課題も浮かび上がる。全国ワースト上位が続く交通事故への対策、高齢者や県外観光客に不可欠な公共交通網の整備などだ。



今年は、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録見込みとなるなど、観光分野に好機が到来する。産官学など県内関係機関が、いかに連携を強めて県内経済のすそ野まで好影響を広げられるか、真価が問われる。

県内は、県都前橋以外にも核となる都市が多い。地域リスクの分散という強みがある一方で、個々の利害を超えて県全体のパワーを高める努力も必要だ。



先週末、敷島公園内のばら園を訪れ、時の経過とともに色が変わる「あかぎの輝き」をはじめ、様々なバラを1年ぶりに鑑賞した。これほどの公園が無料開放されるのは他県にも誇れることで、恵まれた群馬の象徴とも言えるだろう。

今月、異動で当地を離れることになった。名残惜しいが、群馬県がバラの名のように、将来にわたって輝き続けることを、県外からしっかり見守りたい。

日本銀行前橋支店長
相良 雅幸